

横浜中華街における占い店舗の集積と享受者像

中町泰子（神奈川大学非常勤講師）

横浜中華街は中華料理店が立ち並ぶ、食を中心とした観光地のイメージが長く浸透してきたが、街の変化は大きく、近年では占い店舗が増加している現象も注目されている。メディアにおいては、「占いの聖地」や「占い店の激戦区」などと称され、行列のできる店舗も複数確認される。

そうした占い店舗は、まず低額で短時間の手相鑑定で客引きを行い、さらに興味を示した依頼者には、タロットや四柱推命、風水など別の占術を用い、追加料金で詳しい相談にのる。山下清海によれば、占い店舗はバブル崩壊後の隙間に現れた、非中国的な店舗の流入のひとつであるという。同時期には寿司店やマッサージ店、水族館が出店している。この時期には新華僑の流入に伴い、「食べ放題」の店や、安価な定食の店が現れ始め、老華僑の中国料理店や土産物店には閉店するところもみられるようになってくる。山下による 2018 年の調査では、中華街に 27 軒の占い店舗が認められているが、占い店舗そのものへの踏査は行われていない。

本発表においては、報告者の 2018 年からの観察と、2020 年～2021 年において調査を行った結果を基に、37 店舗に増加した占い店舗の集積の経緯を報告する。また、そこではどのような人びとが、どのような目的で占いを享受しに訪れているのかを考察したい。

調査方法としては、街並みの観察と、占い店舗の経営者や店長、占い師（鑑定士）に聞き書きを行うことと、占いの享受者の観察から、導かれる結果を分析する。コロナ禍であり、十分なフィールドワークは望めないが、現時点で可能な調査から、変化し続ける中華街の流行現象と、観光地という特色ある場所における、現代人の占い享受のあり方を考える。

参考文献

- 中町泰子 2021 年 3 月「横浜中華街における占い店舗群の形成とその担い手に関する考察」、国際日本文化研究センター「巫俗と占術の現在—東アジア世界の民間信仰の伝播と展開」共同研究会発表（オンライン）
- 山下清海 2018 年「フィールドワークで探る横浜中華街の現状—立正大学地理学科山下清海ゼミ調査報告 2018」（「清海老師の研究室」qing-hai.org）
- 長友麻苗未 2009 年「横浜中華街の発展とブランドイメージ」『学芸地理』64 号、70－82、東京学芸大学